

平成21年度 地域ぐるみで子どもを育てるつどい

- 学校・地域・家庭が連携して -



11月7日(土)の午後、寺井地区公民館にて、小松教育事務所管内三市一町の関係者約180人が、実践報告やパネルディスカッションを通して学校と地域の連携への理解を深めました。

第1部は「地域ぐるみの学校支援推進事業」の取り組みについて、小松市教育委員会生涯学習課 寺井 和弘 課長補佐、小松市立符津小学校 粟井 祥弘 教頭、小松市立芦城小学校 高島 雅展 校長の3名から実践報告を頂きました。

第2部はパネルディスカッションを通して、様々な立場の方からの視点で学校・地域・家庭が連携を強めていくためのポイントなどを意見交換しました。

パネリストの方から頂いた
「学校・家庭・地域が
連携を深めるため」の
キーワード



加賀市立山中中学校 畠中 雅一 校長 『仲間づくり』

小松市立符津小学校 岡山 清美 校長 『地域は学校の応援団，学校は地域の活力源』

小松市地域支援本部実行委員会 本村 与茂 委員長 『これからの成熟社会を共に生きる』

能美市立辰口中央小学校PTA 吉川 香里 学級委員長 『ありがとう』

川北町教育委員会社会教育課 室谷 敏彦 課長

『学校外の教育(体験活動)の充実 ~学校から地域へのアプローチ~』

アドバイザー 石川県教育委員会生涯学習課 宮崎 謙治 課長補佐 より

地域と連携のための各校のコーディネーターの役割がとても重要で、学校がどのような人材を求めているのかのニーズを把握する必要がある。地域の方も学校にボランティアに入ることによって自己有用感が高まり、生涯にわたっての生き甲斐につながる。

参加者からの

意見・感想

今日のタウンミーティングに参加して、自分には何ができるだろう?と考えました。子どもたちのために何か少しでも役に立てたらと思いました。

学校を支援するだけでなく、支援する地域の人々の元気や活力につながることに改めて気付かされました。

保護者も生きるに精一杯といつ方が増え、そのしわ寄せが子どもにあらわれている。地域の方々が学校に協力する取組が広まってくると嬉しい。

教員として、地域の方々の協力の効果は、実感としてあります。地域支援本部事業が、広がっていくといいなと思います。